

メディアリリース

2018年7月31日

本資料は2018年7月31日にチューリッヒで発表されたメディアリリースの翻訳版です

2018年第2四半期及び2018年上半期の業績

2018年第2四半期の調整後ベース*税引前利益は前年同期比88%増の13億CHF

調整後ベース*税引前利益は過去12四半期で最高を記録しました。

ウェルス・マネジメント事業では顧客主導の成長が続き、2018年上半期の新規純資産は235億CHFとなりました。

当グループの2018年第2四半期純収益は前年同期比7%増、調整後ベース*営業費用合計は同5%減となり、営業レバレッジは7四半期連続でプラスを記録しました。

ストラテジック・リゾリューション・ユニット(SRU)では、既にリスク加重資産¹とレバレッジ・エクスポージャーが2018年末目標を下回る水準にあります。

当グループの2018年上半期の調整後ベース*税引前利益は前年同期比58%増の25億CHF、税引前利益は同68%増の21億CHFとなりました。

ウェルス・マネジメント事業の2018年上半期の新規純資産は235億CHF、年率換算の新規純資産増加率は6%となりました。運用資産は7,840億CHFと過去最高を記録し、利益率は上昇しました。

グローバル・アドバイザー及び引受事業の2018年第2四半期の純収益は前年同期比14%増の12億USD、インベストメント・バンキング & キャピタル・マーケッツ(IBC)部門の純収益は米ドルベースで同23%増となりました。

グローバル・マーケッツ(GM)部門は2018年第2四半期に資本と費用に対する抑制を継続し、調整後ベース*営業費用合計は米ドルベースで前年同期比2%減となりました。同部門の純収益は同8%減の14億USDとなりました。インターナショナル・トレーディング・ソリューションズ(ITS)事業の純収益は同25%増と特に堅調でした。

自己資本比率は高水準を維持し、2018年第2四半期末のルックスルーCET1比率は12.8%、ルックスルー・ティア1レバレッジ比率は5.2%でした。

株主に帰属する当期純利益は2018年第2四半期が前年同期比114%増の6億4,700万CHF、2018年上半期が同49%増の13億CHFとなりました。

クレディ・スイスの最高経営責任者(CEO)、ティーン・ティアムは次のように述べています。「2018年第2四半期の業績は引き続き好調に推移し、調整後ベース*税引前利益は過去12四半期で最高を記録し、前年同期比では7四半期連続の増益となりました。

当グループの2018年第2四半期の調整後ベース*利益は前年同期比で88%増加しました。背景には7%という堅調な増収に加えて、厳しいコスト抑制に支えられたプラスの営業レバレッジの継続がありました。増収とコスト削減という2つの要素がもたらす複合的な効果が数四半期にわたって続いたことで、2016年第4四半期以降、利益は累計で44億CHF増と大幅に増加しました²。

ウェルス・マネジメント事業では、全般的な利益モメンタムが2018年上半期に加速しました。新規純資産は、超富裕層顧客を主な牽引役に235億CHFと引き続き堅調でした。過去最高となった運用資産と高い利益率を背景に、新規純資産の年換算増加率は6%となりました。これは、当グループの顧客基盤、及び様々な収益源や地域にわたる多様な事業モデルの強さを如実に示すものです。

当グループはグローバル・マーケット(GM)部門とウェルス・マネジメント事業との連携を引き続き強化する一方で、資本/コスト/リスクに対する厳しい抑制を維持してきました。当グループは引き続き質の高いソリューションをウェルス・マネジメント事業の顧客に提供する中で、GM部門とウェルス・マネジメント事業に重点を置く部門であるスイス・ユニバーサル・バンク(SUB)部門及びインターナショナル・ウェルス・マネジメント(IWM)部門との間の戦略的イニシアティブであるITS事業で続く力強いモメンタムを背景に、堅調な収益を達成しました。

2018年第2四半期のグローバル・アドバイザー及び引受事業では、数件の大型M&A案件の完了が収益を押し上げ、IBCM部門ではアドバイザー事業の牽引により全ての主要金融商品にわたり市場をアウトパフォーマンスしました。

SRUでは、リスク加重資産¹とレバレッジ・エクスポージャーの双方で既に2018年末の目標を達成し、銀行における過去から尾を引く問題への効果的な取り組みにおける重要な節目となりました。

今後年末にかけて、当グループはウェルス・マネジメント事業の基盤拡大と、事業再編プログラムの残り2四半期を成功裏に終えることに引き続き注力していく方針です。

2019年以降については、収益性の向上、リターンの拡大、株主価値の増大を引き続き目指していく所存です」。

見通し

2018年下半年の世界経済の成長見通しは依然として良好ですが、地政学的問題や世界貿易をめぐる緊張の高まり、そして各国中央銀行の金融政策の変更が及ぼす影響によって、年末にかけて不確実性が高まる局面も予想されます。そうした不確実性は次第に景況感に悪影響を及ぼす恐れがあり、その場合、当グループの市場の影響をより強く受ける活動に関連する広範囲な資産クラスや活動に大きな影響を及ぼす可能性も否めません。

年末にかけて、スイス、アジア太平洋部門、IWM部門のウェルス・マネジメント関連事業の成長性は引き続き良好と見込まれます。また、顧客をサポートし、リターンが最も高い事業機会に資本を配分する中で、2018年下半年も広範な顧客主導の成長が引き続きウェルス・マネジメント関連事業に貢献すると予想しています。

過去10四半期にわたる事業再編の実行によってもたらされた進展、そして適切に制御された数々の決断と行動の相乗効果によって、当グループの2019年の有形株主資本利益率(ROTE)

目標(10~11%)の達成に向けて順調に進捗しています。

ハイライト

- 当グループの2018年上半期の純収益は前年同期比5%増の112億CHFでした(2018年第2四半期:同7%増の56億CHF)。
- 2018年上半期の調整後ベース*純収益は前年同期比4%増の112億CHFでした(2018年第2四半期:同7%増の56億CHF)。
- 2018年上半期の営業費用合計は前年同期比4%減の90億CHFでした(2018年第2四半期:同2%減の45億CHF)。
- 2018年上半期の調整後ベース*営業費用合計は前年同期比5%減の85億CHFでした(2018年第2四半期:同5%減の42億CHF)。
- 2018年上半期の税引前利益は前年同期比68%増の21億CHFでした(2018年第2四半期:同81%増の11億CHF)。
- 2018年上半期の調整後ベース*税引前利益は前年同期比58%増の25億CHF(2018年第2四半期:同88%増の13億CHF)。

脚注

* 調整後業績を指します。調整後業績は非 GAAP の財務指標です。最も直接的に比較可能な米国 GAAP 財務指標に対する調整後業績の差異調整については、7月31日に発表された英語版メディアリリースの Appendix をご参照下さい。

- 1 2015年上半期の190億CHFと2018年上半期の110億CHFのオペレーショナル・リスクを除きます。
- 2 四半期の調整後ベース*税引前利益については、前年同期比での増加の累計を指します。